

## 第 1 回次世代育成協議会第一部会（子ども育成）概要

平成 17 年 9 月 2 日（金）午後 2 時より

区役所本庁舎 6 階 第二委員会室

出席者 坂内夏子、増田玲子、武田厚子、石原慎一、立花加代子、坂本悠紀子、平野克彦、片山典明、菊池久子、菊池義和、新宿警察署長代理 生活安全課長 小島幸雄、新宿少年センター所長 寺島光夫

1 開 会 福祉部子ども家庭課長

2 あいさつ 福祉部長あいさつ

3 部会設置の報告 部会長 坂内夏子氏

4 議 事

(1) 次世代育成をめぐる現状について

ア 報告事項

(ア) 部会の所管事項について 子ども家庭課長説明

(イ) 重点項目への取組み状況について

・ 幼児期の教育、保育環境の充実（幼保一元化の取組み状況）

企画政策部副参事 説明

愛日幼稚園・中町保育園の幼保連携

四谷幼保一元施設

(ウ) 平成 17 年度第 1 回新宿区区政モニターアンケート《速報版》集計結果について（資料 1）

(エ) 平成 17 年度第 2 回新宿区区政モニター会議（テーマ「子育てをみんなで応援するまちづくり」）で出された意見・要望について（資料 2）

イ 質 疑

特になし

(2) 次世代育成支援推進にあたっての課題について

ア 課題の抽出

(ア) 委員から出された課題について（資料 3）

委員...平成 16 年から居場所事業が開始し、教育委員会から土曜日で考えてほしいといわれ P T A が各学校で学校を開放し、学校を核とした居場所づくりに取り組んでいるが、ふたを開けてみると、子どもの参加が少ない。同じ日

に校庭開放もしているし、その他の団体も様々なイベントを行っている。同じ時間帯で、参加する子どもは同じであり、2~3人とか10人位しかいない。予算があっても参加が少ない。関係機関が連携を取り無駄のない形で実施すべきだ。各団体の得意分野があり企画、施設管理、広報などをそれぞれが連携をとってやったらどうか。

委員...育成会の活動のほか、昨年はPTA会長をしていた。居場所づくりについては、文科省から予算が下りてきて、急いで立ち上げてくれとのことで、PTAとスクールコーディネーターと校長先生の説明を受け、16年に立ち上げた。学校の休みの時間で、基本的に新宿区では学校の施設を使ってという条件がついていたので、そういうことで子どもを集めなければならないと苦労した。学校は休みになったがそのまま家庭で受け入れられない子どもがたくさんいる。土曜日に時間をもてあまして。地域では、公園ありゆったりーのなどのNPOあり、今はさまざまなプログラムがあり、縦割りの状態でやっている。本当に子どもの必要な場所を一つにまとめていく作業が必要。学校の施設を使って、子どもを集めることが本来の姿か、子どもたちの必要とする居場所はどこか。もっと自由に幅広く企業の施設を借りるとか、フレキシビリティなものが必要。

委員...落合地区では色々なイベントを行っているが、参加しない子、いけない子が集まれる場所として図書室の開放を夏休みに3日間行った。集まったのは4~5人であった。いつも大学生がいるとか、勉強を教えてくれるとかやっていることが分かるようにする必要がある。

委員...筆筈では8団体が連絡を取り合い毎月料理教室、理科大の学生ボランティアによる実験教室、囲碁将棋教室、ビーズ作りを行っている。何ができるか団体が相談して地域センターで行っている。決まった曜日に同じ教室をやっていると参加しやすい。若松地域センターは、事務室から見える所を居場所としている。中学生がおやつを持ってきて食べたり、話したり楽しくやっていて、健全な感じがする。筆筈は皆が集まる場所が事務室から見にくい所なので何をやっているか分からず時々声かけしなければならない。地域センターはもっと開放的であれば良い。今後に活かしてほしい。

委員...企画は児童館や地域センターの人、学校は施設開放、PTAは広報と役割分担すれば各団体負担が少ない。

委員...学校を単位とした居場所づくりについて、中学校として教育委員会と連携してきたが、今回、福祉部と連携ができ、また違った形もかんがえられるようになった。地域の中でポケットパークやひろばがあるが、泥んこ遊びを行えるようなところが必要。団塊の世代が定年を迎えるが、70、80歳でも元気である。学校を核としてだけでなく世代間交流が大切と考えた。地域

の交流で子ども達が育って行ってほしい。戦争の話、原爆の話、お盆の話、神社の話、地域の伝統芸能や祭り等をお年寄りに語ってもらいたいと思った。それが心の教育にもつながっていくと思う。

委員...牛込仲之小ではお年寄りに場所を開放して昔話や昔遊びを行う交流を考えたが、いざ場所となると3階になりお年寄りには不便で使えないということになってしまった。花園小はエレベーターがあるので今後期待できる。お年寄りの関係の人に聞いたら、家にこもって出てこないお年寄りもいる。学校に居場所があると良いと話していた。

委員...私達が一般に事業を考える時、子どもは小学校、中学校単位では考えない。地域の中で事業に集まる子どもである。学校、PTAが関わらなければいけないという予算の消化のためにやるやり方はない。

委員...次世代を育成することを考える場合、次世代育成支援計画の目標1の、P34「学校を核とした」の部分( )に入れ「(学校を核とした)子どもの居場所」のほうが具体的な場所の広さをイメージするのに良いのではないか。地域や原っぱなど学校にこだわらない。ここに集まる子どもが皆新宿の子ども達なんだというイメージで考えていく方が良い。

委員...学校に固執しすぎるのではないか。私立に通っている子は集まらない。子どもを中心に考えることが必要。

委員...今ある、いろいろなプログラムの予算を整理し、事業を統括して、本質を見極め、プログラムをまとめていく方向が必要である。

委員...淀四小は西戸山中となっているが、特出や育成会は柏木地区である。居場所の地域割は日常の活動地域とは異なる。

委員...学校の区域と地区の区域が違い、子ども達は学校の区域以外の施設の使用、事業の参加をためらうことがある。団体によっては、学校で区別するところもある。どの学校の子でも区別なく居場所を確保してあげたい。

委員...子どもは地域でなくただ楽しいから、友達が行くから行くだけだ。

委員...西戸山中は学校の区域が2地区にまたがっている。安全マップも2種(柏木地区と大久保地区)ある。

委員...区立幼稚園の全教室にクーラー設置など、公立幼稚園ばかり予算がつくが、幼稚園に行く子はどこも同じである。公立も私立も同じように少しでも補助してほしい。

委員...公立に入れなかった子どもが私立幼稚園に行っていることもある。私立幼稚園も同じようにしなければならない。

委員...私立、公立のPTAの交流も必要。

(イ) その他の課題について

特になし

(ウ) 課題の絞込みについて

部会長と事務局である程度詰めて提示する。